

## 平成 29 年度第 3 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 29 年 6 月 28 日 (水) 18:30 ~ 20:00

【場 所】 厚田保健センター

【出席者】 10 名 (15 人中)

役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
会長	佐藤 勝彦	○	委員	小山 玲子	○	委員	中井 健太	
副会長	渡邊 教円	○	委員	今 光 江		委員	平賀 敏和	○
委員	大内 さつき	○	委員	坂本 悌生		委員	前田 和也	○
委員	大黒 利勝		委員	柴田 志寿子	○	委員	築田 敏彦	○
委員	小笠原 英史	○	委員	柴田 肇	○	委員	吉田 美香	

※正副会長を除き、あいうえお順

本 庁 ~ 工藤文化財課長・中西商工労働観光課長

支 所 ~ 西田支所長・田村市民福祉課長(兼生涯学習課長)・西山主査・今野協力隊員

事務局 ~ 高田地域振興課長・今田主査・川村主査・中村主任  
(地域振興課)

【傍聴者】 2名

- 【次 第】
1. 開会
  2. 会長あいさつ
  3. 報告事項
    - ・道の駅資料展示について
    - ・厚田カンパニー構想について
    - ・第7期地域協議会の委員選考について
  4. 協議事項
    - ・座談会 『地域協議会のあり方』について
  5. その他

### 【(厚) 地域振興課 高田課長】

お晩でございます。

開会の前に、坂本委員から欠席の連絡を受けておりますので、報告させていただきます。併せて、前田委員が若干遅れるとの連絡を頂いておりますので、重ねてご報告させていただきます。

協議会に入る前に、今日は文化財課の工藤課長に来ていただいております。道の駅 2 階の資料室の展示の形が概ねまとまったということで、その説明を今日地域協議会の中ですということ、併せて資料室サポートの会の方々にも出席していただいていることをご報告いたします。

それでは平成 29 年第 3 回地域協議会を開会いたします。会長、ご挨拶よろしく申し上げます。

## 2. 会長あいさつ

### 【佐藤会長】

改めてお晩でございます。今年度第3回目の地域協議会ですね。

昨日、吉田一男さんの奥様、純子さんがお亡くなりになりまして、大変地域に貢献して頂いておりました。大黒委員にしても、吉田純子さんにしても、地域で活躍している方がお亡くなりになってしまうと、何かこう、地域づくりのために、素晴らしい人たちが1人、2人と欠けていくのは大変寂しい。それだけではなくて、地域にとっても大変痛手なことでございます。

そういうことで、なるべく地域に貢献される方の輪を広くし、なるべく地域に貢献している方を増やしていくことを、これから考えていかななくてはいけないと思っております。一人の人に多くの負担をかけてしまうということをなるべくないようにですね、何とかこう、地域を元気に活性化していくような仕組みをこれからまた、皆様の知恵をお借りしながら考えていきたいと考えておりました。

今日は議題、あるいは報告事項が多くありますので、私の挨拶、いつも長くなるんですけども、短めに切り上げて、今日の第3回も意義のあるものにしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

## 3. 報告事項

### 【佐藤会長】

それでは早速報告事項に移らせていただきます。

一点目、道の駅の2階に展示される資料室について、文化財課の工藤課長からご説明いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

### **道の駅 資料展示室について**

#### 【文化財課 工藤課長】

皆さんこんばんは。文化財課の工藤でございます。

これまでの資料室とは大分違ったイメージのものを作りたいと、色々工夫してきたところでございます。今日は4枚の資料を用意しました。1枚目が2階の平面を描いたものとなります。設計としてこういうものを作るわけなんですけれども、これが資料室といいますか、こちらの方で使う部分というのが四角い建物の下の方の部分ですね。下の方の右側のところで厚田の文学と芸術という辺りを使っております。

ここのコンセプト、基本的な考え方というのは、単なる資料室の展示というわけではなく、ここへ来て、ここを起点にして、厚田の中、あるいは浜益の方へ向けて、現地に行って、色んなものを見て頂く、楽しんで頂く、そういうことができる、そういう場所にしようというのが一つのコンセプトでございます。

動線として、2階に上がってきて、この図で言いますと、左側が飲食のコーナーになってございます。この方を抜けていきますと、こちらの、我々は作戦会議室という風に言っておりますがテーブルでございましてけれども、四角いものが並んでおります。ここが作戦会議室でございまして。来た方がここで、作戦を練る。厚田のどこに行こうか、浜益の何が面白いのかこういうところで、作戦を立てていただくというような趣旨で用意しております。

次のページは作戦会議室のイメージです。壁際、窓際のテーブルで色々話をし、作戦を立ててもらいたいイメージ。それから、天井から聚富原生花園とかですね。海岸のカシワ林とかいくつかこういうものがありますけれども、自然を中心にした厚田・浜益の見所というのを紹介するところでございます。この上から下がっているパネルの中には、色々言葉の説明もありますし、写真もあり、更に場所によっては例えば化石の実物を見せるような、そういうような工夫をしようと思っております。

また、この絵の方とですね、左側の奥の方にありますけれども、厚田の地形のジオラマ、模型を用意しようとしております。厚田を俯瞰して見る、上から見てどのような地形、どういうところに何があるかわかるということで、地図というよりは立体的な地形の模型、ジオラマを用意して見て頂くというようなそういうことで用意しております。

さて、そういった作戦会議室の奥、1枚目の平面図で言いますと、下の右側のところ、右半分のところですね、こちらの方は厚田を中心とする歴史遺産の展示というコーナーになっております。壁際には厚田の歴史について、紹介をしていくということでございます。また、厚田といえばやはり北前船だということで、北前船、厚田に着いた北前船をテーマにしたジオラマを計画しています。船が着いて様々なものを乗せたり、

降ろしたりする。更に厚田から運ばれる中心といえはニシンですので、そういったものを織り込んでいく。この中で、佐藤松太郎もジオラマの中で登場するようなことで、今準備を進めているところであります。

更には、今までの資料室でも厚田の著名人 4 人を非常に大事にして参りましたので、そういった方々の展示コーナーというのも、企画をしております。ただ残念ながら、スペースの関係もございますので、4 人の方の中で、濃淡というのはどうしても出てしまいます。

最後ですが厚田の文学と芸術というコーナーでございます。これは一つの部屋として、ちゃんとドアが付いた部屋として、企画をしております。3 枚目のイラストを見ていただきたいと思ひます。この文学と芸術ということでございますので、厚田の著名人の中で、やはり文学にゆかりの深い子母澤寛と戸田城聖。この 2 人をまず中心に据えようと。それから芸術ということですが、子母澤寛の異父弟である三岸好太郎も非常に厚田とのゆかりを気にしていた画家でございますので、そういったものも入れられたらいいなど。

又、厚田といえは 2 年に一回実施している厚田アクアレーン水彩画展もありますので、これも取り入れた方がいいのかなあということで、色々工夫をしております。スペースに限りがあるものですから、全て完璧にとはならないとは思ひますが、工夫をしていきたいと思ひております。

全体の流れとしては 2 階の展示室で作戦を立てて、道の駅から厚田の中、浜益や石狩市内へ色々観光に行き行ってもらうというところ。また、2 階から野外に出る行って、そのままいくと、戸田生家まで足が延ばせるように、そういったような動線というのも、ちゃんと整備していきたいと思ひております。

これまでであったものと、これから作っていくものをつなぎ合わせて、厚田の皆さんも、また道の駅を利用される方にも、ある程度満足していただけるものを作りたいと思ひております。私からは以上です。

## 【佐藤会長】

はい、ありがとうございます。工夫をなさいまして、大変な作業だったと思ひますけれども、大体こういうイメージで作られるということなんですけれども、これは報告ですから、何か議論ということではないんですけれども、何か質問があれば、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。だんだん形が見えてきますと、素晴らしいと思ひできると思ひますけれども、まだ写真とかスケッチの段階ですから、これができるのを是非ご期待いただければと思ひます。

それでは第 2 点目の報告に移りたいと思ひます。

それでは厚田カンパニー構想について今田さん、よろしくお願ひします。

## 厚田カンパニー構想について

### 【(厚)地域振興課 今田主査】

地域振興担当の今田でございます。お晩でございます。私の方からカラー A3 一枚ものの、厚田カンパニーという資料を今日お配りしております。

4 月にカンパニーについてちょっとお話をさせていただいた時に、少しわかり難いかなということで、これに至るまでの経過を作りましたので、これについてちょっと説明させていただきたいと思ひます。

合併後の平成 17 年から 8 団体が立ち上がって、地域振興団体ということで、様々な活動をされてきたというのが、これまでの厚田ではありましたが、共同の取り組みということで、地域協議会・支所・団体ということで連携してやってきて 12 年を迎えようとしています。12 年を迎えて地域の中で色々な問題、特に住んでいられる方の高齢化が著しく進んできたというのが、主だと思ひます。

いつまでも厚田に住んでいたいという思ひがあっても残念ながら息子さんや娘さんのいる所に行かなくてはいけなくなったという方、ここを何とかしなければいけないということが一つ。一方で、厚田支所については、市役所全体のスリム化などで、なかなか厚田出身の職員が少なくなってきた。そんな中で、高齢者の方が、顔なじみの職員がいなくて、困ったときに声をかけられる支所、相談できる支所というのがなかなかできなくて、保てなくなってきたかなというところが、最近見えてきております。こういう不安要素をなんとかしようというのが『厚田カンパニー構想』です。

目指す姿について、ポイントを 4 点に絞りとめております。

1つ目は、住民同士の助け合い。ここをできる人ができる時にやるという助け合いの仕組みを作りましょうというところ。区民の方が安心して暮らせる。区外の方が住んでみたい『魅力ある地域』。

2つ目は、こういった地域の役割を自分で見出すということで、役割があれば健康に地域で生活し続けることができるのではないかとということで、『健康』というところを地域の方たちに導く。

3つ目は、こういった支え合いの地域というのは今どこの地域でも必要とされていることなので、これが厚田で定着していけば、外から見たときに、厚田に来てこういったサイクルで地域の困り事などが、解決できるというのは他の人にも、他の地域から見ても魅力的なものに映るだろうと、惹いては厚田に人を呼び込むものになっていければという『移住』『定住』の部分での厚田の魅力。『人材の確保』としてもっていければと。

4つ目は、人を惹きつける魅力をここで、定着させてですね、更なる賑わいなどを呼び込んでいければということ。

具体的には、平成32年に厚田が保育園・小学校・中学校が統合されまして、厚田の小学校が統合後、使われなくなると、跡地を利用するというところで、ここを厚田カンパニーの拠点として、位置付けられたらということが一つあります。

このカンパニー構想というのが、地域の方が主役ということで、大元の母体といいますか、自治会に置こうと思っております。どうやって運営していくのかというのが、当然心配であるかと思うのですが、今の道の駅の話でもありましたけれども、道の駅とも連携をして、一つ候補として、小学校の拠点を宿泊ができるような施設にして、外から人を呼び込む、食事を作る、宿泊があれば当然食事の提供もできる所を作らなければいけないというところで、そこも地域の中でできる人が運営していくというところが一つ。

これ以外にもたくさん、近説遠来の材料が厚田にはいっぱいあるということで、これがあれば、厚田で安心して暮らせるし、これを知った人たちが厚田は自然も豊富だし、支え合いの仕組みも出来ていて、暮らしてみたいと。これから、皆で作りに上げていくものという、厚田カンパニー構想としてこれから取り組んでいければと考えております。以上でございます。

#### 【佐藤会長】

ありがとうございます。今この資料を見ながら、ご説明いただきました。これは、まだ構想の段階で、実現するための具体的な施策というのは、これからつめていかないといけません、一応構想ですから、大変大きな方向性というのを含んでおりますね。この議論、具体的な議論につきましては次の7月ですか。具体的に皆さんのご意見を頂きながら、この構想について、具体化していくというような、議論、話し合いを次の会に予定しておりますので、その時にご質問などいただきながらやっていきたいと思うのですが、はい、補足説明、どうぞ。

#### 【(厚)地域振興課 高田課長】

すみません、ちょっと補足説明させていただきます。

組織のイメージがつかみにくいのではないかと思います、この組織自体はA3の表3つ目の箱の、解決策のところになるんですけども、カンパニー自体は住民同士が共に支え合う町を実現するというので、できる人が、できる時にできることをやるというようなことをイメージしております。

また、もう一つの部分としては、この組織、小学校の跡地を利用して、そこに組織を立ち上げるのですが、そこは、地域から必要とされる、求められる拠点というようなものをイメージしております。

運営組織のイメージは、最初に言った通り、このふるさと創生プロジェクト厚田カンパニーは、先ほど今田の方から説明しましたが、大元は自治連合会ということで、自治会のための組織、拠点ですよというイメージをしています。利用者は、町内会員、実働するのは、地域住民、この組織自体は、色々なオファーを受

付、これをつなぐ。地域と町内会の住民さんをつなぐ、地域住民と会員さんをつなぐというような役割を担うということで、この組織に何人かの人員を派遣して、ここで何かを運営するというわけではなく、あくまでも利用者は町内会員。実働部隊として、オファーを受けて解決に向けて動くのは地域住民。できる人のできることをやっていただくということをイメージしております。

住民としては共に支え合う、先ほど申しました通り、住民を巻き込む組織体ですよということになります。また、収益は地元還元ということを基本に動いていきたいということになります。

それと、(株)あい風とこの組織は、連携して事業を共に進めていくといえますか、あい風のサポート部隊を意識しておりますので、決して道の駅とこの組織がぶつかり合うというようなことではなく、共に連携して、色んな活動をお互いにサポートして補っていくということを考えております。それから、財源的な部分、当然小学校を改修するという部分では、財源はどういうふうに考えているんだということになりますけれども、国費の投入ということで、総務省のモデル事業的なことを目指せないかなということ、色々総務省でもこういうような住民自治の推進ということで、モデルケースが結構出ていますので、そういう財源を見出すという選択肢も一つ考えているのと、1億円の地域づくり基金がまだ厚田には8千万円残っているので、その8千万を活用するのも選択肢の一つかなと考えております。

またもう一つ。東京厚田会が昨年出来ました。また姉妹都市として輪島市・恩納村との交流も数年続いておりますので、様々な形で繋がったということもありますので、そういう方々の応援や、クラウドファンディングというような制度もございますので、そんなことも一つの視野の中に、選択肢として進めていけたらなあと考えております。基本的には市の一般財源というのは充当しないということを基本になんとかこれを作り上げていきたいという思いでなんとか進めていっております。

あと、今後の部分なんですけれども、まずはいろいろ宿泊施設を作るとか、色んな形でおもてなし料理を提供するとか、色んなことを今想定しておりますけれども、実際に地域がどんなことを望んでいるかということが重要になっていくと思うので、まずはこれから地域協議会の了解も得ました。町内会、5連の会長さんの了解も得た中で、民生児童委員協議会のみなさんにも説明をしております、是非一緒になって進めていこうと、賛同いただいておりますので、この支所も入りまして4者で、まずはニーズ調査、今考えているニーズが本当に求められているニーズなのかという聞き取り調査をして、それをまとめたいと思っております。それについては、9月までにニーズ調査を行って、解析をして大枠の方向性をまとめていきたいと思っておりますし、この調査に当たってはですね、本庁の関係部署とも連携を図って、高齢化の分もありますし、若い世代を取り込むというのがありますし、防災の観点で今後どうして行かなければ行けないかというような、様々なニーズを聞きただすために色々本庁の関係部署と連携を図りながら、進めていきたいと思っております。

基本的には今年度本格的に動き始めて、目標としては33年度本格営業開始できるような方向で今スケジュールを立てて、これから進めていきたいと思っております。詳細についてはまた、逐次説明をさせていただきますながら、進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

## 【佐藤会長】

ありがとうございました。まだ皆さんにとっては、雲をつかむような構想かなというふうに思うのですけれども、これは、徐々に具体的な説明をしていきますと、日本が将来抱えるであろう問題を、特に過疎化や高齢化社会の中で、時に老老介護を必要とするような、そういう世帯が多くなっていく、これはもう、田舎でも都会でも全く同じなんですけれども、そういう時代を先取りした構想なんですね。ですから、今までのような自治会組織や民生委員組織や社協の組織というのは、完全な縦割りであり、今回の話は風穴を横に通すようなそういう発想ですから我々の既存概念ではちょっと理解しにくいという点があるとは思いますが、これは徐々に説明をしたり具体的な話になってきたりすると、なるほど、そういう時代を先取りした先進的な構想なんだと。

だからここで、株式会社ではないんです。カンパニーというのは、もともと日本語で訳せば“株式会社”ですが、株式会社にしてしまうとだめです。だからそこに、“ふるさと創生プロジェクト”を頭につけて、“厚田カンパニー”ですから、非常に柔軟に対応していけるような構想が、実は新しいということをまず先に感じ取っていただきたいなと思います。

そこですら、例えば一例をあげてみましょうか。具体的なイメージができるように。例えば今私たちが行っているライフサポートの会というのがあります。これは、皆さんから交通の問題や、除雪の問題で大変高齢化してきて困っている。それをサポートする新しいNPOを立ち上げました。ところが、高齢化してきますと、そのサポーター達も困るわけですよ。いわゆる、除雪する力も無くなってきますし、運転するのも困難になってくる。そういう状況で、それではコミュニティバスや、コミュニティ交通なんかを考えたとき、これを引き受けてくれる会社はありません。事業として成り立たないからです。そうしますと、これを地域でやった場合の予算や持ち出しのお金をどこから持ってくるか、となります。そういうものをこのカンパニーでは、先ほど言った補助金だとか、いろんな実は、先ほど一般財源からは市からは貰えませんって言うてましたでしょ？これはもらえないんです。高齢化してくると、税金がどんどん少なくなっていくんですから、これは到底ない袖は振らない。ですから「もらわない！」と啖呵を切るのではなく、これはもらえないのです。

だから、そういうのを含めて、このカンパニーというのは色々な所からお金を集めることによって、それを縦割りの行政だったらとってもできないことですね。これ地域全体でやっってしまうということですね。ですから、この辺は徐々に次の会となるべく具体的な話をしながら、この構想が実は時代を非常に先取りした新しい構想で行われるものだという事を、徐々に理解していただいて、いわゆる地域住民を全部巻き込む厚田版のカンパニー構想だということをご理解いただければと思います。

それでは、こんな私が説明していたらまたまた時間が足りなくなってしまうので、次の報告に移りたいと思います。3点目は、第7期地域協議会の委員選考の進捗状況について、これも今田さんからお願いします。

## **第7期地域協議会の委員選考について**

### **【(厚)地域振興課 今田主査】**

資料はないのですが、7期の選考ということで、今現在公募の案内をしなければいけないということで、広報いしかりの8月号に、厚田と浜益の地域協議会の委員の公募の記事を載せます。公募の定員は、これまで通り3名で募集をかける予定であります。今ご報告できるのは、以上です。

### **【佐藤会長】**

はい。それでは広報8月号にこの公募を載せるということですね。

はい、わかりました。それでは以上3点の報告事項、まとめて何かご質問はございませんか。よろしいですか。

## **4. 協議事項**

### **地域協議会のあり方について**

座談会形式にて協議

## **5. その他**

### **おもてなしセミナーについて**

厚田地域着地型観光まちづくり協議会主催の『おもてなしセミナー』について紹介。

6. 次回会議などの日程について

平成 29 年 7 月 26 日 厚田保健センター

7. 閉会

平成 29 年 7 月 26 日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会長 佐藤 勝彦